

2025・6・14 【俳壇賞2025 B七一全94句】 選38句

17行3段組14ボ 2025年9月14日 22:40 ^1 桐10

- 壇 一番星も百番星も春の星 壇 大いなる牛も鹿の子も足四本 壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな
壇 一寸の深さに種や野焼して 壇 蜘蛛の子の早くも逃げの一手かな 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 野焼して残りし種や土の中 壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな 壇 饅頭のこと夏みかん食ふ妊婦かな 壇 折つてみる琴になる木の枯枝かな
壇 轉りに人の疎らなニュータウン 壇 蝶死して花びらのこと吹かれをる 壇 庭の枇杷家族楽しむほどにかな
壇 蝶死して花びらのこと吹かれをる 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 丈高きものこそ月に供ふべし
壇 熊蜂の胴体が見え翅は見えず 壇 封筒の文の失せたる星祭 壇 瀬らの誰彼もなきつみれかな
壇 飛石の如く椿の踏まれある 壇 瀬らの誰彼もなきつみれかな 壇 朝顔の咲くほかはなき朝の雨
壇 壱うめと読んで梅の字あらず山桜桃 壇 滝壺を積み重ねたる雲の峰 壇 大型で丸い比重の西瓜かな
壇 夏空へ外骨格が飛び立てる 壇 また一つ木の実の落る静けさよ 壇 朝顔の咲くほかはなき朝の雨
壇 お昼寝の子の傍らに大昼寝 壇 国道の北と南や春を待つ 壇 大型で丸い比重の西瓜かな
壇 やはらかにゆるゆるとゆく夜店かな 壇 火吹き竹展示されをり虎落笛 壇 胸元の薔薇のほころぶセータかな
壇 裸子の「お」の付くお腹「せ」の背中 壇 ガス管をガスが流るる虎落笛 壇 山眠るその懐の鳥獸
壇 訝しむアイスに出会ひたる蟻は 壇 胸元の薔薇のほころぶセータかな

2025・9・15【俳壇賞2025 Bトート全59句】選19句

12行3段組14ボ 2025年9月15日 16:44 ^1 v 桐10

- 壇 一番星も百番星も春の星 壇 天網の習作からす瓜の花
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 丈高きものこそ月に供ふべし
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな 壇 篷らの誰彼もなきつみれかな
壇 蝶死して花びらのこと吹かれをる 壇 朝顔の咲くほかはなき朝の雨
壇 落椿飛石のこと踏まれある 壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな
壇 うめと読んで梅の字あらず山桜桃 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 夏空へ外骨格が飛び立てる 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 裸子の前後おなかとせなかり 壇 知らぬ間に居坐つてゐる蟻地獄
壇 訝しむアイスに出会ひたる蟻は 壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 饅頭のこと夏みかん食ふ妊婦かな

2025・9・16【俳壇賞2025 B七一三全69】選20句

12行3段組14ボ 2025年9月16日 02:41 ^1 桐10

- 壇 一番星も百番星も雛の夜 壇 天網の習作からす瓜の花
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 丈高きものこそ月に供ふべし
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口かな 壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 蝶死して花びらのこと吹かれをる 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな
壇 落椿飛石のこと踏まれある 壇 朝顔の咲くほかはなき朝の雨
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな
壇 夏空へ外骨格が飛び立てる 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 裸子の前後お中とせ中あり 壇 訝しむアイスに出会ひたる蟻は
壇 虚無なれや浅く凹みし蟻地獄 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 ホルマリン漬にもならず蟻の殻 壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

- 壇 一番星も百番星も雛の夜 壇 天網の習作からす瓜の花
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口開く 壇 丈高き草こそ月に叶ふべし
壇 蝶死して花びらのこと吹かれをる 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな
壇 落椿飛石のこと踏まれある 壇 朝顔の咲くほかはなき朝の雨
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな
壇 夏の空外骨格が飛び立てる 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 裸子の前後お中とせ中あり 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻
壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄
壇 ホルマリン漬にもされず蟻の殻
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

2025・9・16【俳壇賞2025 B七-5全74】選18句

12行3段組14ボ 2025年9月16日 16:05 ^1 桐10

壇 一番星も百番星も雛の客

壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 一寸の深さに種や野焼跡

壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口開く

壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃

壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな

壇 夏の空外骨格が飛び立てる

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 裸子の前後、お中と、せ中かな

壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村

壇 饅頭の()と夏みかん食ふ妊婦

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻

壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 天網の習作からす瓜の花

壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

2025・9・18【俳壇賞2025 Bト-6全87句】選23句

12行3段組14ボ 2025年9月18日 16:37 ^1 桐10

- 壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 天網の習作からす瓜の花
壇 一番星も十番星も雛の客 壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな
壇 暑し暑しと外骨格が飛び立てる 壇 折り曲げて膝の高きよすいつちよん
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香 壇 秋の草すなはち萩ぞ万葉の
壇 裸子の前後、お中と、せ中かな 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな
壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄 壇 わが息に汚れしマスク哀れなり
壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

2025・9・19【俳壇賞2025 B七一七全95句】選28句

12行3段組14ボ 2025年9月19日 17:42 ^1 v 桐10

- 壇 一番星も十番星も雛の客 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 青葱の青と白とのあはひかな
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 爽やかに心機一転やり直す 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香 壇 觸らの誰彼もなきつみれかな 壇
壇 暑し暑しと外骨格が飛び立てる 壇 折り曲げて膝の高さよすいつちよん
壇 虫干のセピア色とは虫の色 壇 秋の草すなはち萩ぞ万葉の 壇
壇 裸子の前後、お中と、せ中かな 壇 腸へ志へと新酒酌む
壇 饅頭のどこと夏みかん食ふ妊婦 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 擂粉木と麵棒に日の短かけれ
壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄 壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 わが息に汚れしマスク哀れなり

2025・9・20【俳壇賞2025 B七一八全114句】選32句

12行3段組14ボ 2025年9月20日 19:46 ^1 桐10

- 壇 一番星も十番星も雛の客 壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 捜粉木と麵棒に日の短かけれ
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数 壇 虫くうて虫とる糸を生めり蜘蛛 壇 金縁の眼鏡銀盤のスケーター
壇 架替の古き巣箱の集められ 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 わが息に汚れしマスク哀れなり
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香 壇 爽やかに心機一転やり直す 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 暑し暑しと外骨格が飛び立てる 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな 壇 青葱の青と白とのあはひかな
壇 裸子の前後、お中と、せ中かな 壇 折り曲げて膝の高さよすいつちよん 壇 赤い日をつむることなく雪うきぎ
壇 饅頭の（）と夏みかん食ふ妊婦 壇 腸へ志へと新酒酌む
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄 壇 敗荷の自由闊達池広し

2025・9・22【俳壇賞2025 Bトーキ全115句】選30句

12行3段組14ボ 2025年9月22日 18:27 ^1 桐10

- 壇 一番星も十番星も雛の客 壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 わが息に汚れしマスク哀れなり
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数 壇 虫すうて虫とる糸を生めり蜘蛛 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 架け替への古き巣箱の集められ 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香 壇 折り曲げて膝の高さよすいつちよん 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てる 壇 腸へ志へと新酒酌む
壇 虫干のセピア色とは虫の色 壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 裸子の前後、お中と、せ中かな 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな
壇 饅頭の（）と夏みかん食ふ妊婦 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 敗荷の自由闊達池広し
壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄 壇 擂粉木と麵棒に日の短かけれ

2025・9・24【俳壇賞2025 Bトート全126句】選33句

12行3段組14ボ 2025年9月24日 12:37 ^1 桐10

- 壇 一番星も十番星も雛の宴 壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 敗荷の自由闊達池広し
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄 壇 捣粉木と麵棒に日の短かけ
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数 壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 胸元の薔薇のほころぶエタかな
壇 架け替へて古き巣箱を集めをる 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 わが息に汚れしマスク哀れなり
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 虫すうて虫どる糸を生めり蜘蛛 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 切り離す切手と切手梅雨晴間 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 日記買ふ生活必需品も買ふ
壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てる 壇 折り曲げて膝の高さよすいつちよん 壇 赤い日をつむることなく雪うきぎ
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな 壇 腸へ志へと新酒酌む 壇 来てみれば空家ばかりぞ枯木村
壇 虫干のセピア色とは虫の色 壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 裸子の前後、お中と、せ中かな 壇 觸らの誰彼もなきつみれかな
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

2025・9・26【俳壇賞2025 Bトーナメント 全140句】 選30句

12行3段組14ボ 2025年9月26日 05:51 ^1 桐10

壇 雛を見に一番星を先頭に

壇 訝しむアイスクリーム前の蟻

壇 敗荷を自由闊達とも思ふ

壇 一寸の深さに種や野焼跡

壇 虚無なれや主の去りし蟻地獄

壇 胸元の薔薇のほつれしエタかな

壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数

壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

壇 水鳥の踵を効かせ着水す

壇 外されて古き巣箱や草の上

壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥

壇 長葱の青と白とのあはひかな

壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃

壇 虫すつて虫どる糸を吐けり蜘蛛

壇 日記買ひいつものボールペンも買ふ

壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香

壇 天網の習作からす瓜の花

壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

壇 切り離す切手と切手梅雨晴間

壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨

壇 暑し暑しと外骨格の飛び立つて

壇 折り曲げて膝の高きよすいっちゃん

壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな

壇 腸へ志へと新酒酌む

壇 虫干のセピア色とは虫の色

壇 爽やかに心機一転やり直す

壇 裸子はお中、せ中に挟まれて

壇 触らの誰彼もなきつみれかな

壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦

壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

2025・9・27【俳壇賞2025 Bトーナメント 全153句】 選29句

12行3段組14ボ 2025年9月27日 08:01 ~ 桐10

- 壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 廃墟たり主の去りし蟻地獄 壇 胸元の薔薇のほつれしエタかな
壇 虚子の忌の大浴場の蛇口数 壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 虫すうて虫どる糸を溜めり蜘蛛 壇 赤い目をつむることなく雪うきぎ
壇 地下街の梅雨湿りして蕎麦屋の香 壇 天網の習作からす瓜の花
壇 切り離す切手と切手梅雨晴間 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨
壇 虫干のセピア色とは虫の色 壇 腸へ志へと新酒酌む
壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てり 壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな 壇 蠼らの誰彼もなきつみれかな
壇 裸子はお中、せ中に挟まれて 壇 屈折の膝の高さよすいつちよん
壇 饅頭のごと夏みかん食ふ妊婦 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり

- 壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜めり蜘蛛 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 赤い目をつむることなく雪うきぎ
壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む 壇
壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てり 壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな
壇 裸子はお中、せ中に挟まれて 壇 屈折の膝の高さよすいつちよん
壇 饅頭のどと夏みかん食ふ妊婦 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 廃墟たり打ち捨てられし蟻地獄 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 胸元の薔薇のほつれしステタかな

2025・9・28【俳壇賞2025 Bトーナメント 全170句】 選30句

12行3段組14ボ 2025年9月28日 16:58 ^1 桐10

- 壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜めり蜘蛛 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ
壇 一寸の深さに種や野焼跡 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 胸元の薔薇のほつれしエタかな
壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む 壇 草枯れてブロック塀は存へて
壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てり 壇 爽やかに心機一転やり直す 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな
壇 裸子はお中、せ中に挟まれて 壇 屈折の膝の高さよすいつちよん
壇 饅頭のどと夏みかん食ふ妊婦 壇 膝曲げて背ナより高しそいつちよん
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな
壇 廃墟とは打ち捨てられし蟻地獄 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 我こそは芒の味方月の使者

- 壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛 壇 胸元の薔薇のほつれしステタかな
壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 水鳥の踵を効かせ着水す
壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 草枯れてブロック塙は垂直に
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む 壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 暑し暑しと外骨格の飛び立てり 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな 壇 髪ばかり切つて床屋の年詰る
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな 壇 腿高く曲げし力やすいつちよん 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 裸子はお中、せ中に挟まれて 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな 壇
壇 饅頭のどと夏みかん食ふ妊婦 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 我こそは芒の味方月の使者
壇 蟻地獄打ち捨てられて塵埃 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻

- 壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛 壇 胸元の薔薇のほつれしステタかな
壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 水鳥は踵を効かせ着水す
壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 猫の子の猛獸に似る欠伸かな 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 草枯れてブロック塙は垂直に
壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 腸へ志へと新酒酌む 壇 爽やかに心機一転やり直す
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 脳ばかり切つて床屋の年詰る 壇 髪ばかり切つて床屋の年詰る
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな 壇 蟻らの誰彼もなきつみれかな 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 裸子はお中、せ中に挟まれて 壇 跳躍は膝高く曲げすいっちゃん 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 饅頭のどと夏みかん食ふ妊婦 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 蟻地獄打ち捨てられて塵埃 壇 我こそは芒の味方月の使者 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ

- 壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛 壇 胸元の薔薇のほつれしステタかな
壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 水鳥は踵を効かせ着水す
壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 草枯れてブロック塀は不動なり
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む 壇 髪ばかり切つて床屋の年詰る
壇 梅雨傘を抜かるるまでのビニ袋 壇 爽やかに心機一転やり直す 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな 壇 蟻らの誰彼もなきつみれかな 壇 裸子はお中、せ中を前うしろ
壇 裸子はお中、せ中を前うしろ 壇 跳躍は膝高く曲げすいっちゃん 壇 跳躍は膝高く曲げすいっちゃん
壇 饅頭のどと夏みかん食ふ妊婦 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 蟻地獄打ち捨てられて塵埃 壇 我こそは芒の味方月の使者 壇 我こそは芒の味方月の使者
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ

- 壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛 壇 胸元の薔薇のほつれしステタかな
壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 水鳥は踵を効かせ着水す
壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 草枯れてブロック塀のねずみ色
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む 壇 髪刈つてばかり床屋の年詰る
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな 壇 爽やかに心機一転やり直す 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 裸子はお中、せ中を前うしろ 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな
壇 饅頭の「」と夏みかん食ふ妊婦 壇 高飛びの膝高く曲げすいっちゃん
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな
壇 蟻地獄うち捨てられて塵埃 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 秋冬と春にもあれど夏の蠅 壇 我こそは芒の味方月の使者
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ

- 壇 雛を見に一番星を先頭に 壇 虫すうて虫とる糸を溜むる蜘蛛 壇 胸元の薔薇のほつれしステタかな
壇 野焼後の地下一寸の種ぬくし 壇 夕焼に黒点ふゆる蚊喰鳥 壇 水鳥は踵を効かせ着水す
壇 大浴場にあまたの蛇口虚子忌なり 壇 天網の習作からす瓜の花 壇 長葱の青と白とのあはひかな
壇 外されて古き巣箱は草の上 壇 朝顔の咲くほかはなき今朝の雨 壇 草枯れてブロック塀のねずみ色
壇 梅の字の消えてしまひし山桜桃 壇 腸へ志へと新酒酌む 壇 髪刈つてばかりの床屋年詰る
壇 ぐつぐつと太陽煮ゆる旱かな 壇 爽やかに心機一転やり直す 壇 赤い目をつむることなく雪うさぎ
壇 裸子はお中、せ中を前うしろ 壇 鰯らの誰彼もなきつみれかな
壇 饅頭の「」と夏みかん食ふ妊婦 壇 高飛びの膝高く曲げすいっちゃん
壇 訝しむアイスクリーム前の蟻 壇 蟋蟀の潰れて黒き地べたかな
壇 用済みの蟻地獄には塵埃 壇 丈高き草こそ月に叶ひけり
壇 秋冬と春にもあれど夏の蠅 壇 我こそは芒の味方月の使者
壇 ホルマリン漬にもならず蟬の殻 壇 敗荷を自由闊達とも思ふ